

無限に繰り返される螺旋の先に、古代中国人は何を見出したか。高度な鑄造技術で生み出された殷周時代の青銅器は、奇想天外な造形と、複雑怪奇な文様によって特徴づけられています。トラやミミズクなどの実在の動物から、龍や鳳凰、饕餮といった空想上の獣まで、さまざまなモチーフが登場し、そうした文様・モチーフの内外を埋め尽くすような螺旋状の地文が、神秘的な印象をより一層高めています。古今東西、呪術的な意味合いを強くもってあらわされてきた螺旋。繰り返されるそのリズムから、変幻自在の文様デザインが生み出され、横溢するエネルギーを発散するかののような視覚効果は、ほかでは味わえないものとなっています。泉屋博物館ブロンズギャラリーでは、世界最高峰とも称される住友コレクションの逸品を一堂に会し、古代中国の魅惑的なデザイン感覚を余すことなくご紹介いたします。青銅器のみを展示するために設計された特別な空間で、東洋美術最後の秘境ともいえるべき古代中国の至宝をお楽しみください。

「夔神鼓(きじんこ)」

殷後期 前12-11世紀

グロテスクにも思えるほどに過剰な装飾がほどこされたこの青銅器は、「鼉鼓」とよばれる太鼓を模したものであるらしく、左右の打面にはワニ革を張った様子が文様で表現されている。中央には両手両足を広げた人の姿があらわされ、その頭からは大きな角が生えている。何らかの神をあらわしている可能性が高いが、その正体をめぐっては諸説あって定かでない。なお、夔は『山海経』に登場する怪物の名で、牛の姿に似て一本足、水に出入するときは風雨をともない、日月のような光を発し、その鳴き声は雷のよう。黄帝がこれをとらえ、その革で太鼓をつくらせたところ、敲いた音は五百里先にまで届き、天下を畏怖せしめたという。



2026年

4月4日(土)

7月31日(金)

休館日:月曜日(5月4日、7月20日は開館)、
4月24日(金)、5月7日(木)、5月8日(金)、
7月21日(火)
開館時間:午前10時~午後5時(入館は
午後4時30分まで)

泉屋博物館

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 Tel: 075-771-6411



夔神鼓文様拓本



中国青銅器の時代
Sen-oku Hakukokan Museum
BRONZE GALLERY
泉屋博物館
SEN OKU HAKUKOKAN MUSEUM

